検討資料

西地域の小中学校のあり方について

平成２５年１月　鳥取市校区審議会、鳥取市教育委員会

本市で進めている小中学校施設の耐震化事業と校区再編の取り組みの中で、耐震診断結果を受け、施設整備にあたり、西地域の小中学校の将来のあり方の検討が必要であると考えております。教育環境のあり方、地域のあり方について保護者の皆さま、地域の方々のご検討をお願いします。

１　気高中学校、青谷中学校、鹿野中学校の施設の状況について（教育委員会）

平成２４年度、気高中学校（管理棟および教室棟）、青谷中学校（教室棟①,②）の耐震化整備にあたり、耐震二次診断を実施し、鳥取県耐震診断等評定委員会による評定を受けましたが、その結果（平成２４年９月１７日付）は下記のとおりでした。鹿野中学校の状況と合わせてお示しします。

〔気高中〕

施設区分	建築年	構造・階、面積	Ｉｓ値		建物の状況および整備内容について	整備の方向性	
			一次	二次			
教室棟	Ｓ４２	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造３階 1,789 ㎡	０．４５	０．３５	柱のない特殊な壁構造のため、評定委員会のＩｓ値の計算方法が低い数値になった。 耐震補強を行う場合、柱・梁がないため、全ての窓に鉄骨のブレスを設け、かつ壁を特殊な工法で補強する必要がある。	耐震補強あるいは改築	← 今回診断結果
管理棟	Ｓ４２	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造３階 1,952 ㎡	０．４５	０．４４	耐震補強の場合、柱はあるが内部に耐力壁がないため各階に壁を追加する必要があり、部屋割の変更と改修が必要となる。	耐震補強あるいは改築	←
体育館	Ｓ４３	鉄骨造　平屋 1,220 ㎡	０．５５	(鉄骨造は二次診断はない)	老朽化が進んでおり、耐震補強および全面改修（屋根、床、壁など）が必要	耐震補強	

〔青谷中〕

施設区分	建築年	構造・階、面積	Ｉｓ値		建物の状況および整備内容について	整備の方向性	
			一次	二次			
教室棟①	Ｓ３４	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造３階 994 ㎡	０．４３	０．４５	コンクリートの中性化が進行しており、鉄筋の錆の進行も予想される。建物の劣化が激しく地震時に耐力を発揮できない可能性がある。 不同沈下があるため杭の打ち換えも必要となり新築に近い費用がかかる。	耐震補強あるいは改築	← 今回診断結果
教室棟②	Ｓ３５	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造３階 1,546 ㎡	０．４４	０．４５	不同沈下が激しく、以前より進行しているため杭の打ち換えが必要。コンクリートの中性化もかなり進行しており、鉄筋の錆の進行も想定される。建物の劣化が激しく地震時に耐力を発揮できない可能性がある。	耐震補強あるいは改築	←
管理棟	Ｓ５８	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造２階 800 ㎡	（耐震診断不要）		耐震補強の必要はないが、老朽化がみられる。	改修が必要	
体育館	Ｈ１	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋 1,032 ㎡	（同上）		大規模な改修は必要ない（但し雨漏りの修理が必要）。		

〔鹿野中〕

施設区分	建築年	構造・階、面積	Ｉｓ値		建物の状況および整備内容について	整備の方向性
			一次	二次		
校舎	Ｓ５０	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造３階 3,050 ㎡	Ｈ１８耐震補強済		老朽化が進んでおり、改修が必要（防水、壁、サッシ等）	改修が必要
体育館	Ｓ６０	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋 743 ㎡	（耐震診断不要）		（現時点では問題なし）	（改修不要）

Ｉｓ値（構造耐震指標）の説明

Ｉｓ値	説明	整備の方向（文科省補助）
０．３未満	大規模な地震による倒壊や崩壊の危険が　高い	耐震補強または改築
０．３以上０．７未満	〃　ある	耐震補強
０．７以上	〃　低い	（補強不要）

２　学校の規模の現状と再編の必要性について（校区審議会）

（24. 12. 21　第８回校区審議会）

鳥取市校区審議会では、本市の小中学校の標準規模を**６学級～１８学級**とし、少子化による学校規模の縮小が進んでいることを受け、標準規模を下回るいわゆる過小規模校（全体で５学級以下の学校）、および過小規模となることが見込まれる学校については、早急な対策が必要であるとの基本的な考え方を持っております。この点から、西地域の学校の課題を下記のとおり提示させていただきます。

（１）気高中学校、青谷中学校、鹿野中学校について

本市の標準規模に照らし、西地域の中学校では、鹿野中については既に全校で３クラスとなっており、これを下回っていますので、早急な検討を要すると考えます。また、青谷中も１０年後には６学級を下回り、気高中でも生徒数の減少が見込まれます。

（西地域の中学校の生徒数）

区分	Ｈ２４	Ｈ２９	Ｈ３４
気高中学校	２２７名　（６学級）	１９９名　（６学級）	１８３名　（６学級）
鹿野中学校	**９６名　（３学級）**	**９１名　（３学級）**	**７８名　（３学級）**
青谷中学校	１５５名　（６学級）	１２４名　（６学級）	**１１１名　（５学級）**
３校合計	４７８名（１３学級）	４１４名（１１学級）	３７２名　（９学級）

・Ｈ２４は平成２４年５月１日現在の人数。Ｈ２９，３４は平成２４年９月１日時点の推計。
・学級数は、１年生を３３人定員、２，３年生を３５人定員で算出。
・特別支援学級の学級数は含まない。

現状と将来の学校規模の見通しをふまえ、個々の中学校、および西地域全体での学校のあり方を十分検討する必要があると考えます。

（２）気高地域の小学校について

気高地域の小学校は、一部で小規模化が進んでおり、統合を検討すべき段階にあると考えられます。平成２９年度には、４校のうち２校で６学級を割る状況となり、宝木小学校も小規模化が進んでいます。

（気高地域の小学校の児童数）

区分	Ｈ２４	Ｈ２９	校舎建築年次（参考）
宝木小学校	８４名　（６学級）	７４名　（６学級）	Ｓ６０
瑞穂小学校	**３７名　（４学級）**	**５０名　（５学級）**	Ｓ６３
浜村小学校	２４２名（１０学級）	２２１名（１０学級）	Ｓ５２，５８
逢坂小学校	５０名　（６学級）	**２３名　（４学級）**	Ｓ５９
４校合計	４１３名（１６学級）	３６８名（１２学級）	

・Ｈ２４は平成２４年５月１日現在の人数。Ｈ２９，３４は平成２４年９月１日時点の推計。
・学級数は、１・２年生を３０人定員、３年生以上を３５人定員で算出。
・特別支援学級の学級数は含まない。

将来的には４校のうち３校で小規模化への対策が必要となる見込みであることを考え、統合を検討すべき段階にあると考えます。４校での統合や２校ずつでの統合、段階的統合などが考えられます。

中学校施設の耐震化に際し、よりよい教育環境や学校のあり方を考えることが必要であり、鳥取市校区審議会では、地域の皆さまの意見を踏まえたうえで、西地域の中学校、および関連のある気高地域の小学校について、方向性をまとめ、答申に反映させることとします。

具体的には、統合や小中一貫校への移行といった選択肢について、施設整備の可能性と合わせて保護者や地域関係者に情報を提供し、各地域での検討結果をふまえた上で、平成２５年１０月を目標として校区審議会の答申を行います。

3 中学校の整備を行う上での課題について（教育委員会）

施設の耐震化整備について、将来の統合などの可能性も考慮すると下記のように課題もあります。

整備の方法		説明
区分	内容	
(1) **耐震補強**を基本とした整備	① 気高中 ・校舎の**耐震補強** （教室棟・管理棟） ② 青谷中 ・教室棟の**耐震補強** ・管理棟の改修	1)事業費は一番少なくなる 2)整備内容・効果に疑問が残る ・気高中の窓面のブレス ・青谷中の耐震性能 3)改築に近い事業費が必要となるが、耐用年数が伸びるわけではなく、コストパフォーマンスが低い 4)工事中の騒音、振動等の影響が大きい 5)気高中の体育館(耐震補強)や武道館、青谷中の管理棟、鹿野中校舎・プールなど改修の必要な施設が依然として残る
(2) **改築(建て替え)**を基本とした整備	① 気高中 ・校舎の**改築** （教室棟・管理棟） ② 青谷中 ・教室棟の**改築** ・管理棟の改修	1)校舎が新しくなる　(気高中、青谷中) 2)工事中の振動・騒音などが少ない 3)膨大な事業費となり、２校の整備費の計は中学校を新設する費用を越える 4)改築を行った場合、直後に統合で校舎を使わなくなれば、整備の意義が問われる(気高中あるいは青谷中)。統合が適切な時期に実施出来ない可能性がある。 5)小中一貫校へ移行する場合も、校舎を使わなくなれば整備の意義が問われる 6)気高中の体育館(耐震補強)や武道館、青谷中の管理棟、鹿野中校舎・プールなど改修の必要な施設が依然として残る

このように、気高中、青谷中で耐震化整備を行う場合の内容には一長一短があります。そして両校で改築を中心とする整備を行う場合には、合計２０億円を超える膨大な費用が必要となりますが、この事業費があれば新しい中学校の新築を行うことも可能となります。よって今回、将来的な学校のあり方（統合あるいは小中一貫校など）を想定し、学校のあり方を見極めたうえで、そこに向けた教育環境の整備を進めるべきであると考えます。

4 学校のあり方について（校区審議会）

小規模化の解消の方法としては、統合を行う方法以外に、小中一貫校へ移行する方法があります。その比較は下記のとおりです（中学校に絞っての説明です）。

区分	統合	小中一貫校
良い面 (メリット)	**生徒増や教員増によるメリット** ・教科担任を他校との兼務や非常勤ではなく本務者で確保できるため、指導が充実する。 ・グループ学習や活動が充実する。 ・人数が多ければ多様な考え方が出てくる。 ・切磋琢磨する機運が出てくる。 ・交友関係が広がる。小中１校ずつであった場合は、中学校進学で新たな出会いがある。 ・学年１クラスから複数クラスになればクラス替えができる。 ・部活動の編成で有利（種目、チーム人数）。 ・部活顧問の増で種目増や充実につながる。 ・生徒数やクラス数が増えることにより学校行事が充実する。活気が出てくる。	**カリキュラム面のメリット** ・９年間でのカリキュラムを組むことができ特色ある充実した内容へと工夫できる。 **児童(小学生)と一緒に生活・学習することのメリット** ・人数が増えることで学校行事が充実する。 ・縦のつながりを持つことで上級生としての自覚が深まる。 **教員増によるメリット** ・小中教員が一体となって教育・運営に当たることで充実した体制となる。 **その他** ・地域から児童生徒が出ていくことを食い止めることができる。
悪い面 (デメリット)	通学が遠くなり不便になる。 地域から学校がなくなることで、地域の活力がなくなったり、過疎化が進む懸念がある。	生徒が増えるわけではないので、小規模による問題（授業、部活動、交友関係など）は基本的に解消されない。 ９年間同じ環境（クラスメート・施設）となる。人間関係が固定化し、切磋琢磨しなくなる。

5 中学校整備と学校のあり方の選択肢について（教育委員会）

施設整備と中学校のあり方について、考えられる選択肢を示します（①は当面の形、②は将来想定）。

【選択肢１】耐震補強（気高中、青谷中)を行い、単独校を維持する（将来的には統合などへ移行）

区分		学校のあり方		
		単独存続	小中一貫校	統合
施設整備	**耐震補強**	①	→	②
	一部改築	↘		
	内部改修		②	
	全面新築			

1）改築と比較して施設整備費が安い。
2）耐震補強であれば、後の統合や小中一貫校への移行の際に国庫補助金の返還は必要ない。
3）気高中・青谷中の校舎の耐震補強は割高であり、耐用年数も伸びないので事業効果が低い。
4）耐震補強工事は工事中の振動・騒音等の負担が大きい。
5）小中一貫校への移行の場合、小学校施設を使うことが想定される(教室数の問題)が、改修が必要であり、十分な施設とすることができるかどうか懸念がある。
6）将来統合へ移行する際、施設の新築は望めない。かつ、統合を検討する時点で教室数が足りるかどうか分からない。
7）小中一貫校に移行しても、統合が必要となる可能性がある。

【選択肢２】一部改築（気高中、青谷中）を行い、単独校を維持する

区分		学校のあり方		
		単独存続	小中一貫校	統合
施設整備	耐震補強			
	一部改築	①	------→	(②)
	内部改修		↘(②)？	
	全面新築			

1）校舎の建て替えができる（気高中、青谷中）。
2）施設を改築すれば、その後１０年間は統合による廃校や小中一貫校への移行が困難となる可能性が大きい。
3）２校で統合校新設と同規模の整備費がかかり、それでもまだ改修の必要な施設があるためさらに費用と期間を要する(事業効果に疑問)。
4）小中一貫校への移行の場合、小学校施設を使うことが想定される(教室数の問題)が、改造が必要となり、改造で十分な施設（面積・機能）とすることができるかどうか懸念がある（詳細な検討が必要）。さらに中学校を整備した後だと事業費が重複する。
5）将来統合へ移行する際、施設の新築は望めない。かつ、統合を検討する時点で使用する学校で教室数が確保できるかどうか不明。

【選択肢３】今すぐ小中一貫校への移行を行う（鹿野中、青谷中）

区分		学校のあり方		
		単独存続	**小中一貫校**	統合
施設整備	耐震補強			
	一部改築			
	内部改修		①	
	全面新築		？	↘(②)

1）すぐに移行を行う場合、耐震補強や改築は不要となる。
2）小学校施設を使って小中一貫校とする場合、施設の改造が必要となる。十分な施設（面積・機能）とすることができるかどうか懸念がある（詳細な検討が必要）。
3）廃止する学校施設の転用(利用)が可能となるが、反面、危険建物の解体や残った施設の利活用・管理の検討が必要となる。
4）将来的に中学校の統合へ移行することは可能であるが、施設整備（小中一貫校への改造）から概ね１０年経過後となる。新たな場所に統合校を新設する場合も、気高中改築から概ね１０年を経過した後となる。

【選択肢４】中学校の統合を行う（気高中、鹿野中、青谷中）

区分		学校のあり方		
		単独存続	小中一貫校	**統合**
施設整備	耐震補強			
	一部改築			
	内部改修			
	全面新築			①

1）３校統合により、より大きな規模の学校となり、充実した教育や生活を送ることができる。
2）新たな場所で統合する場合、施設の全面新築が可能となる（既存校を使用する場合はその学校の施設整備要件による）。
3）西地域全体で新しい学校を作るという機運を高め、夢のある統合を行うことができる。
4）西地域の学校再編と施設整備の課題が解決し安定した体制ができる。
5）廃止する学校施設の転用(利用)が可能となるが、反面、危険建物の解体や残った施設の利活用・管理の検討が必要となる。
6）統合により通学が遠く不便になる地域が生じるので対策が必要。
7）中学校がなくなる地域は寂しくなる。

教育委員会では、校区審議会の答申（平成２５年１０月の予定）をふまえて学校のあり方と施設整備の方向性について決定し、早期の安全確保（耐震化）へ向けて計画を立て事業を進めていきたいと考えています。

6 よりよい教育環境を実現するための案について（教育委員会）

統合を検討する場合の想定として、様々な条件を考慮し、下記の案をお示しします。
但しこれはあくまで様々な選択肢（可能性）のうち、統合を行う場合のひとつの案としてご検討下さい。

（1）前提条件

① 中学校統合

中学校統合を行う場合、新たな場所に施設を設置することとなれば、新築が可能となります。統合校の場所を仮に気高地域とすれば、通学面でより好ましい立地を検討する必要があると考えます。

② 小学校統合

気高地域の小学校統合を行う場合も、通学面で好ましい立地を検討する必要があると考えます。また、小学校統合においても、新たな場所に施設を設置する場合は、新築が可能となります。

（2）想定案

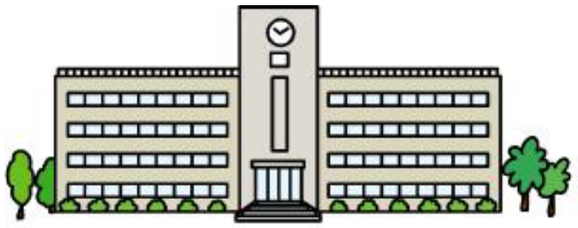
上記の条件を考え、最も有利な案として下記のパターンが考えられます。

（1）３中学校（気高中、鹿野中、青谷中）を統合し、新しい中学校を設置する。
（2）４小学校（宝木小、瑞穂小、浜村小、逢坂小）を統合し、新しい小学校を設置する。

◎ 新中学校は、現在の浜村小学校の位置とし、同小学校の敷地内に施設（体育館を除く）を新築する。
◎ 新小学校は、現在の気高中学校の位置とし、同中学校の敷地内に施設を新築する。

【理由】

・統合中学校は、通学にＪＲが利用できることを考え、より浜村駅に近い場所として現浜村小の位置が望ましいと考えます（浜村小は浜村駅から７００m、気高中は１，４００mです）。
・小学校統合の位置としては、気高地域内でのバランスを考えると、現在の気高中の位置が適切であると考えます。
・小中とも、新たな位置での施設整備となるので、国の補助を受けることができます（仮に現在の学校への統合を行う場合は、その学校の施設を使う前提での整備しか認められません）。



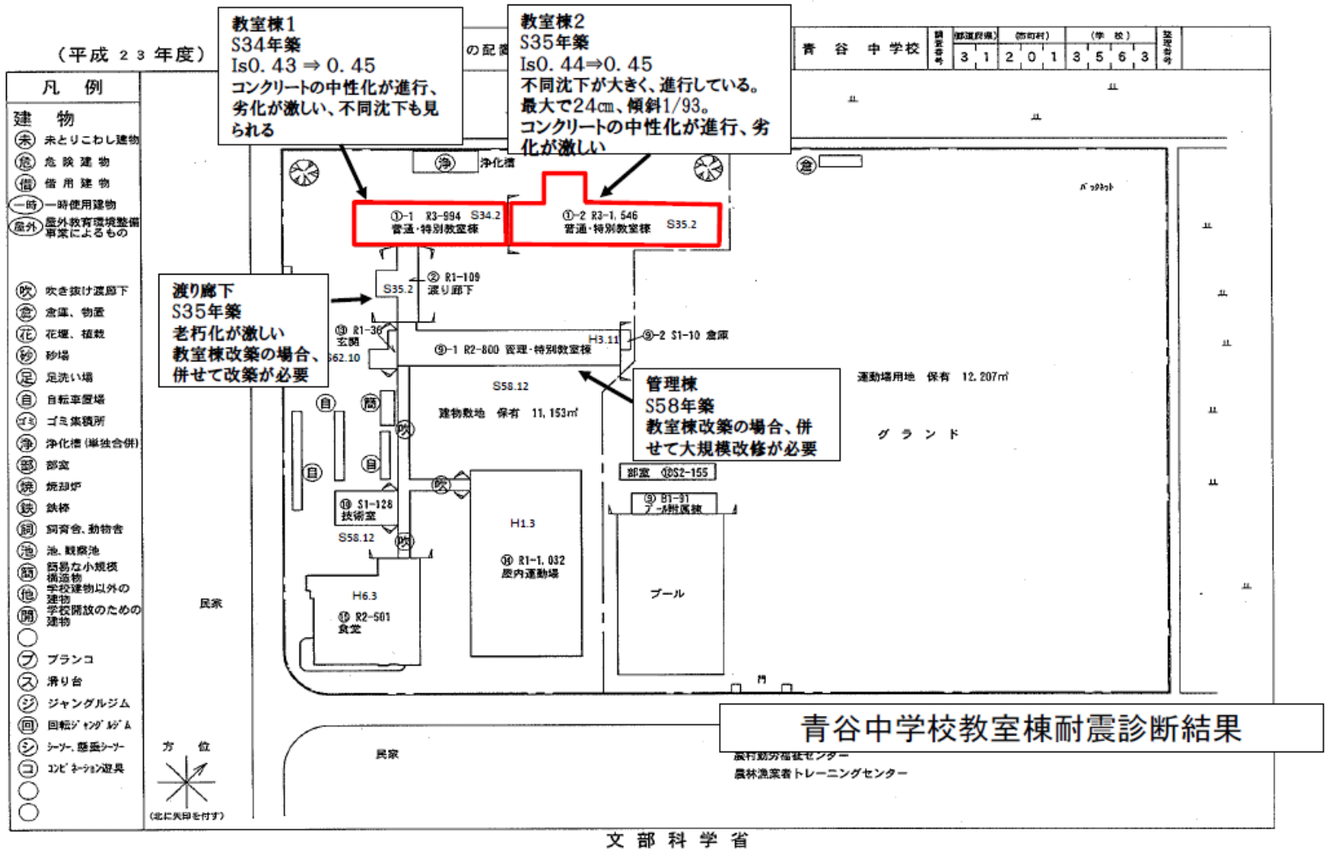
小学校統合を含めた選択肢について、施設整備の方向と併せて課題等を整理します。

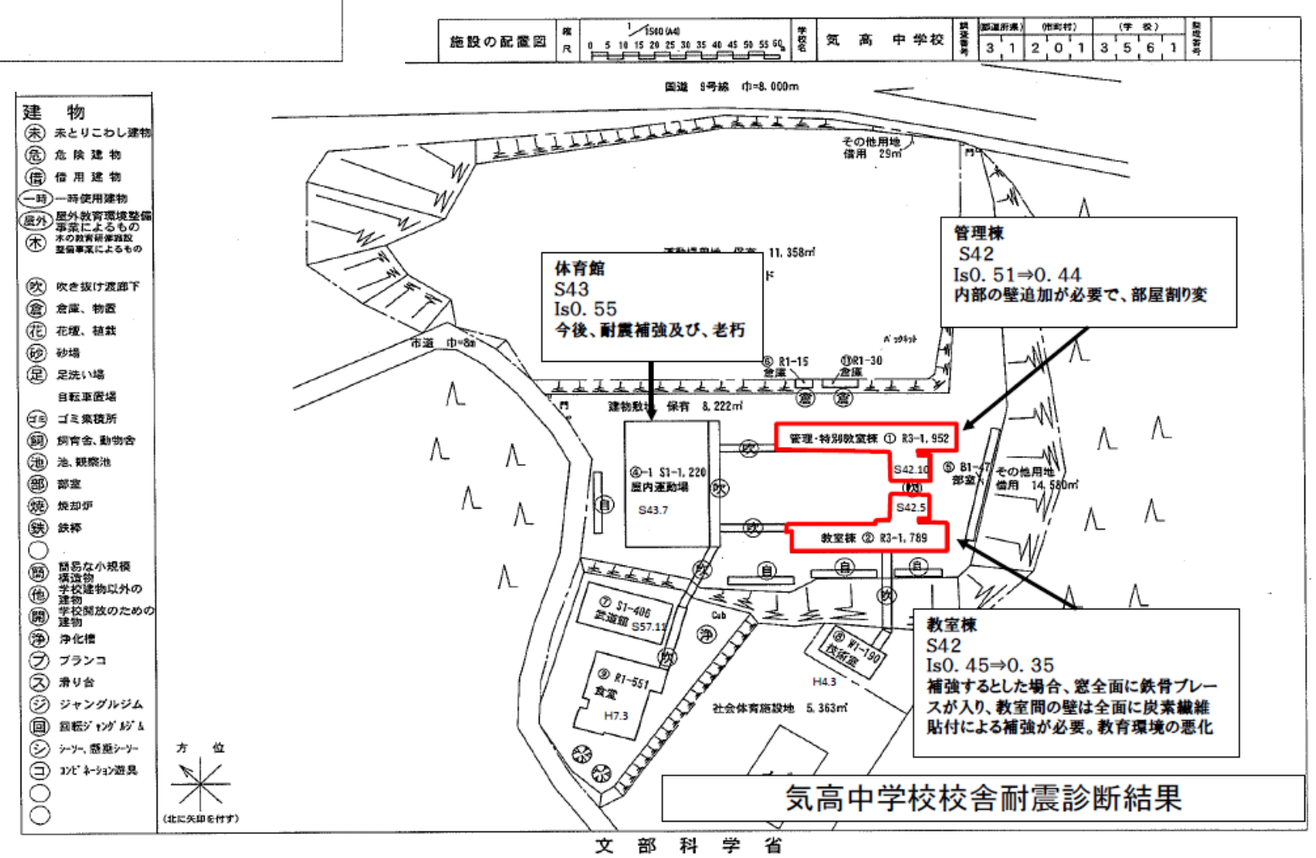
区分	当面の対応	将来的な選択肢（想定）		考えられるメリット、デメリット等
今回統合を行わない場合	【施設整備】 （改築を想定） ○気高中、青谷中の校舎を建て替える ※気高中では、グラウンドにプレハブを建設し、現校舎を解体して建設する。 ※青谷中でも、グラウンドにプレハブを建設し、現校舎を解体して建設する。 （現在の校舎の位置に建設する） ＊文化財の関係 ■スケジュール （目安） Ｈ２６設計 Ｈ２７～２８工事 Ｈ２９．３月完成	小中一貫校（鹿野・青谷）	① 関係者により、小中一貫校設置へ向けての検討会、準備会を開催し学校のあり方等を検討。 ② 校舎を改造し小中一貫校設置へ向け準備する一方、学校名等を検討する。 鹿野 … 鹿野小校舎を改造 青谷 … 青谷小校舎を改造 （中学校施設では教室数が不足するため） ■時期未定	○小中一貫教育により９年間での効果的なカリキュラムとする事ができる ○児童・生徒の上下関係によりお互いの成長に効果がある。 ○生徒数の少なさをある程度カバーできる。 ○地域に中学生を残すことができる。 ×中学生の生徒数は増えないので、部活動、交友関係などの問題が解消しない ×小中一貫校だと９年間同じ施設、同じ顔ぶれのままでの学校生活となる ×施設面で対応できない可能性もある ×最終的に統合が必要となる可能性有り
		中学校統合	・３校同時あるいは段階的（一校ずつ）の統合を検討 ・想定として気高中学校への統合となる可能性が大 ・教室数不足の可能性有 （対応：増築、ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ、延期） ■時期未定	○校舎を整備し、学校を存続することが可能 ○ある程度現状を維持した上で適切な時期の統合を考えることができる。 ×校舎の改築から１０年間は統合は出来ない（青谷。補助金返還の必要がある） ×統合時期によっては、教室数が不足しプレハブで対応となる可能性もある。 ×気高中に統合の場合、現在の位置となる
	小学校（気高）	①関係者の協議会を設け学校のあり方を検討 ②検討結果により統合などの対策（４校統合、段階的統合など） ③施設面の措置を検討 ■時期：未定		○統合などについて、時期や方法をじっくり検討することができる。段階的統合も可能 ×４校統合する場合でも、新たな場所への設置でなければ施設の新築は困難。 （浜村小に統合する場合、校舎耐震補強と改修のみ）
今回統合を行う場合	・中学校、小学校それぞれで統合に向けた検討組織を発足し、新しい学校の施設、教育内容等について検討を開始する（設計内容、学校名、理念、通学方法、校章・校歌） ・協議と並行して設計に着手する（設計期間：約１年） ・設計後、建設に着手（約２年） ※気高中ではグラウンドにプレハブ校舎を建設し、現在の校舎を解体して新小学校校舎を建設する。 ※浜村小では、グラウンドに新中学校校舎を建設する ※浜村小、気高中ともに、建設中は隣接する運動広場を使用し、体育活動や運動会を行う。 ■スケジュール（仮） Ｈ２５　検討、方針決定 Ｈ２６　設計 Ｈ２７～２８　建設工事 Ｈ２９．４月　開校（統合中学校、統合小学校）			○将来的な統合を考えれば、設置場所や施設新築の面でベストな形となる ○３中学校が対等な立場で新たな学校作りを行うことができる ○早い時点で統合することにより、よい教育環境（適切な規模の学校）が実現できる ○統合小学校の施設を新築することができる ○充実した施設とする事が可能（規模、設備等） ×急な話であり検討期間が短い ×通学距離が遠くなる ×合意形成に時間がかかれば施設整備が遅れる。小中の統合がセットなので両方の合意がないと実施出来ない ×中学校がなくなれば地域が衰退する懸念が大きい（鹿野、青谷）	

7 今後の進め方について（校区審議会、教育委員会）

今回、耐震診断結果を受け、将来を見通しての検討であり急な取り組みとなりますが、よりよい教育環境に向けた施設整備と安全確保を早期に進めるためには、学校のあり方を含めた検討を行わなければならないと考えています。各地域での説明や意見交換を行ったうえで、平成２５年１０月には方向性をまとめていきたいと考えますので、地域の皆さまのご協力をお願いします。

［担当］ 鳥取市教育委員会 学校教育課（校区再編担当） 平井 電話 0857-20-3089 FAX 0857-29-0824
〃 教育総務課（施設担当） 小林 電話 0857-20-3353 FAX 〃


（平成 23 年度）
凡 例
建 物
教室棟1
S34年築
Is0. 43 ⇒ 0. 45
コンクリートの中性化が進行、劣化が激しい、不同沈下も見られる
教室棟2
S35年築
Is0. 44⇒0. 45
不同沈下が大きく、進行している。
最大で24㎝、傾斜1/93。
コンクリートの中性化が進行、劣化が激しい
渡り廊下
S35年築
老朽化が激しい
教室棟改築の場合、併せて改築が必要
管理棟
S58年築
教室棟改築の場合、併せて大規模改修が必要
青 谷 中 学 校
①-1 R3-994 S34.2
普通・特別教室棟
①-2 R3-1,546
普通・特別教室棟 S35.2
② R1-109
渡り廊下
⑨-1 R2-800 管理・特別教室棟
⑨-2 S1-10 倉庫
運動場用地 保有 12,207㎡
グ ラ ン ド
建物敷地 保有 11,153㎡
⑭ R1-1,032
屋内運動場
⑲ S1-128
技術室
⑲ R2-501
食堂
プール
民家
方 位
（北に矢印を付す）
青谷中学校教室棟耐震診断結果
文 部 科 学 省

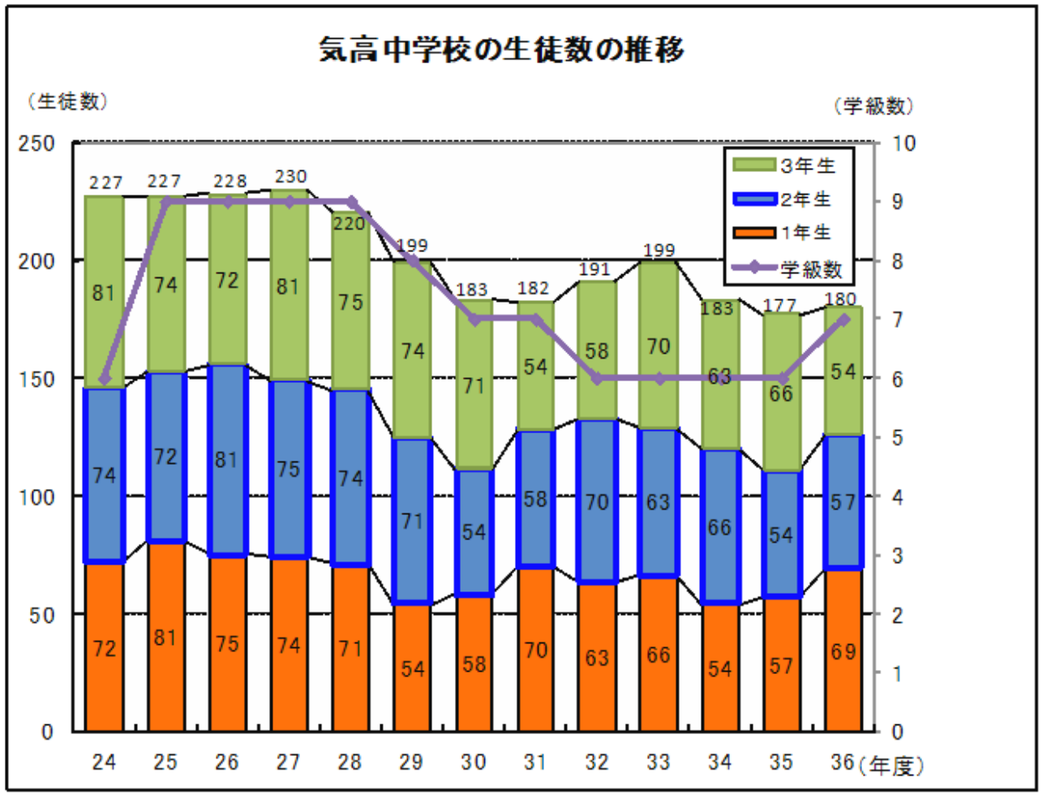

施設の配置図
気 高 中 学 校
国道 9号線 巾=8.000m
その他用地
体育館
S43
Is0. 55
今後、耐震補強及び、老朽
管理棟
S42
Is0. 51⇒0. 44
内部の壁追加が必要で、部屋割り変
管理・特別教室棟 ① R3-1,952
教室棟 ② R3-1,789
④-1 S1-1,220
屋内運動場
S43.7
教室棟
S42
Is0. 45⇒0. 35
補強するとした場合、窓全面に鉄骨ブレースが入り、教室間の壁は全面に炭素繊維貼付による補強が必要。教育環境の悪化
社会体育施設地 5,363㎡
方 位
（北に矢印を付す）
気高中学校校舎耐震診断結果
文 部 科 学 省

気高中学校の生徒数

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
24	72	2	74	2	81	2	227	6	
25	81	3	72	3	74	3	227	9	
26	75	3	81	3	72	3	228	9	
27	74	3	75	3	81	3	230	9	
28	71	3	74	3	75	3	220	9	
29	54	2	71	3	74	3	199	8	
30	58	2	54	2	71	3	183	7	
31	70	3	58	2	54	2	182	7	
32	63	2	70	2	58	2	191	6	
33	66	2	63	2	70	2	199	6	
34	54	2	66	2	63	2	183	6	−19.38
35	57	2	54	2	66	2	177	6	
36	69	3	57	2	54	2	180	7	

※H24.5.1現在の生徒数
※H25年度以降6年間の1年生は、H24.5.1現在の該当小学校区各学年児童数
※H31年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数
※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出
（1年：33人学級、2・3年：35人学級）

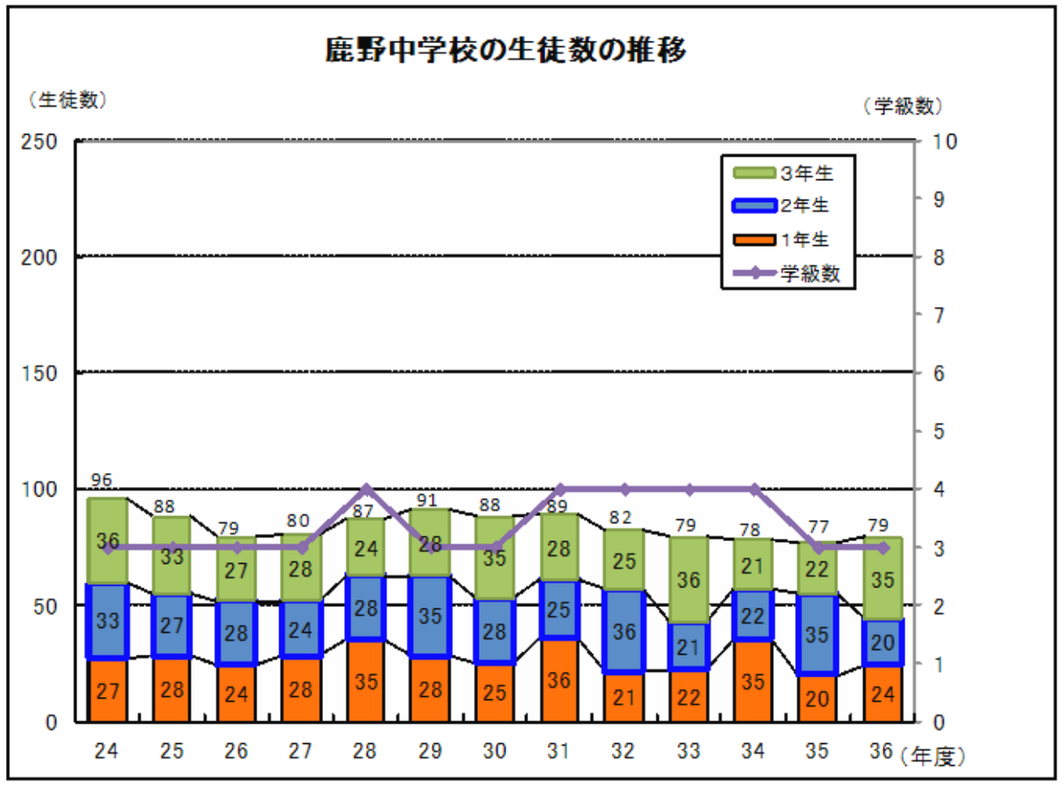


鹿野中学校の生徒数

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
24	27	1	33	1	36	1	96	3	
25	28	1	27	1	33	1	88	3	
26	24	1	28	1	27	1	79	3	
27	28	1	24	1	28	1	80	3	
28	35	2	28	1	24	1	87	4	
29	28	1	35	1	28	1	91	3	
30	25	1	28	1	35	1	88	3	
31	36	2	25	1	28	1	89	4	
32	21	1	36	2	25	1	82	4	
33	22	1	21	1	36	2	79	4	
34	35	2	22	1	21	1	78	4	−18.75
35	20	1	35	1	22	1	77	3	
36	24	1	20	1	35	1	79	3	

※H24.5.1現在の生徒数
※H25年度以降6年間の1年生は、H24.5.1現在の該当小学校区各学年児童数
※H31年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数
※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出
（1年：33人学級、2・3年：35人学級）

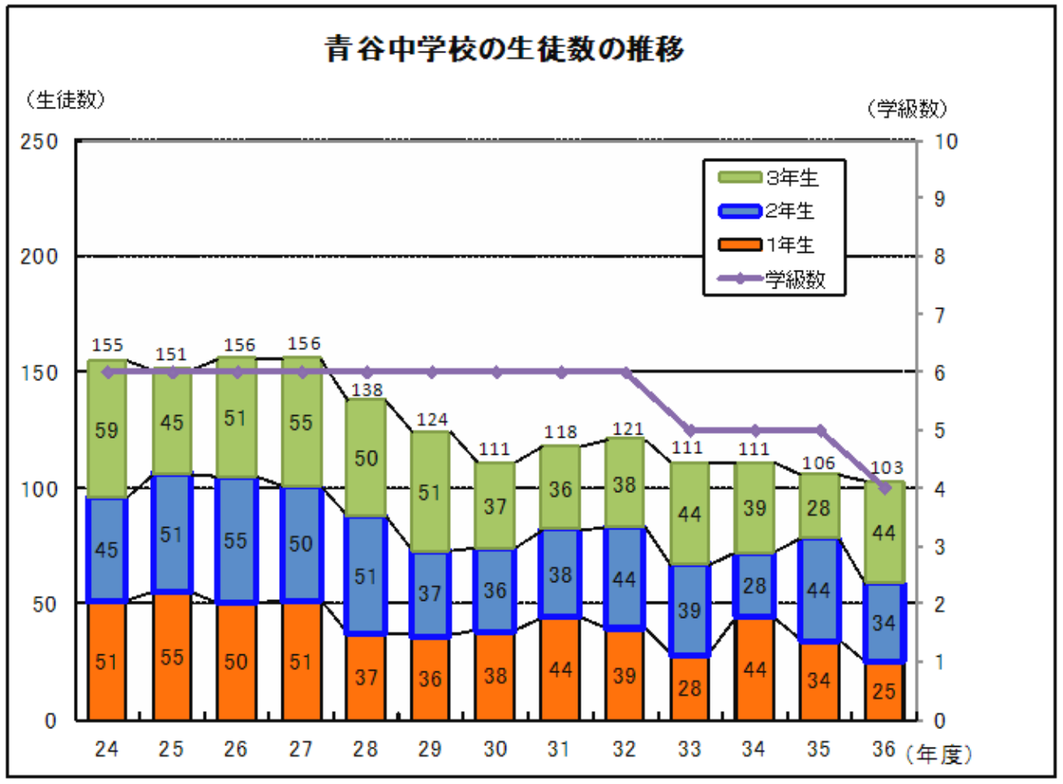


青谷中学校の生徒数

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
24	51	2	45	2	59	2	155	6	
25	55	2	51	2	45	2	151	6	
26	50	2	55	2	51	2	156	6	
27	51	2	50	2	55	2	156	6	
28	37	2	51	2	50	2	138	6	
29	36	2	37	2	51	2	124	6	
30	38	2	36	2	37	2	111	6	
31	44	2	38	2	36	2	118	6	
32	39	2	44	2	38	2	121	6	
33	28	1	39	2	44	2	111	5	
34	44	2	28	1	39	2	111	5	−28.39
35	34	2	44	2	28	1	106	5	
36	25	1	34	1	44	2	103	4	

※H24.5.1現在の生徒数
※H25年度以降6年間の1年生は、H24.5.1現在の該当小学校区各学年児童数
※H31年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数
※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出
（1年：33人学級、2・3年：35人学級）

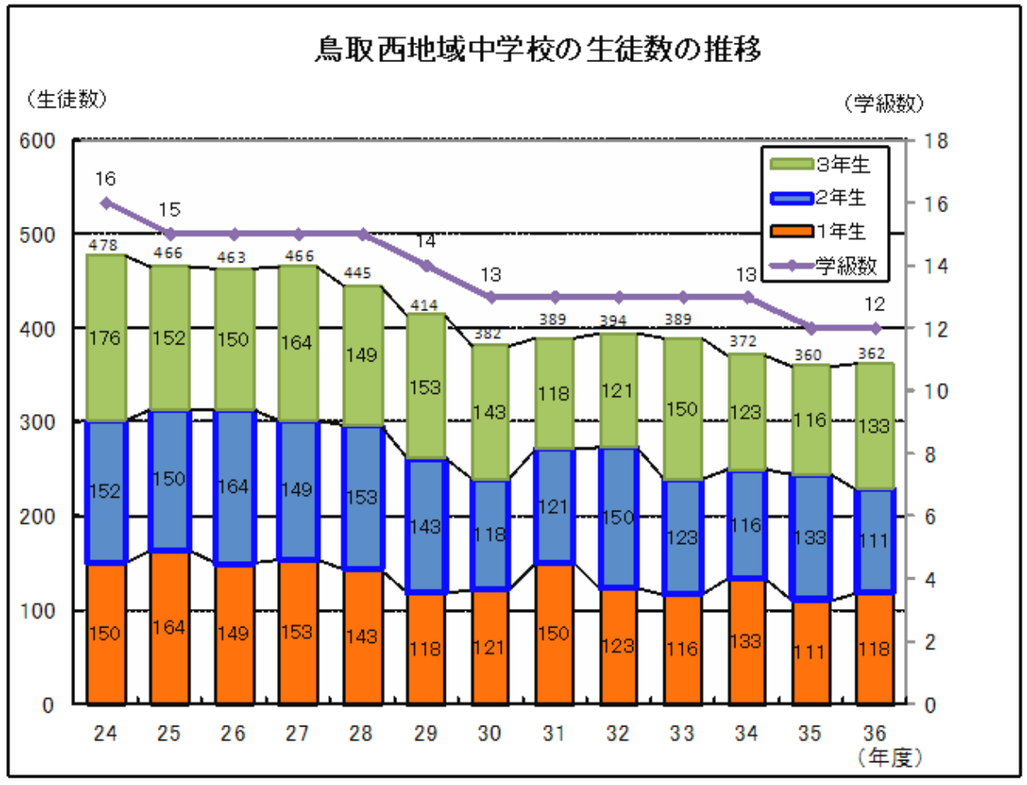


鳥取西地域中学校の生徒数

【年度別生徒数】

年度	1年生		2年生		3年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
24	150	5	152	5	176	6	478	16	
25	164	5	150	5	152	5	466	15	
26	149	5	164	5	150	5	463	15	
27	153	5	149	5	164	5	466	15	
28	143	5	153	5	149	5	445	15	
29	118	4	143	5	153	5	414	14	
30	121	4	118	4	143	5	382	13	
31	150	5	121	4	118	4	389	13	
32	123	4	150	5	121	4	394	13	
33	116	4	123	4	150	5	389	13	
34	133	5	116	4	123	4	372	13	−22.18
35	111	4	133	4	116	4	360	12	
36	118	4	111	4	133	4	362	12	

※H24.5.1現在の生徒数
※H25年度以降6年間の1年生は、H24.5.1現在の該当小学校区各学年児童数
※H31年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2、3年生は、前年度の各1学年下の生徒数
※学級数は、現在の鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出
（1年生：33人学級、2・3年生：35人学級）

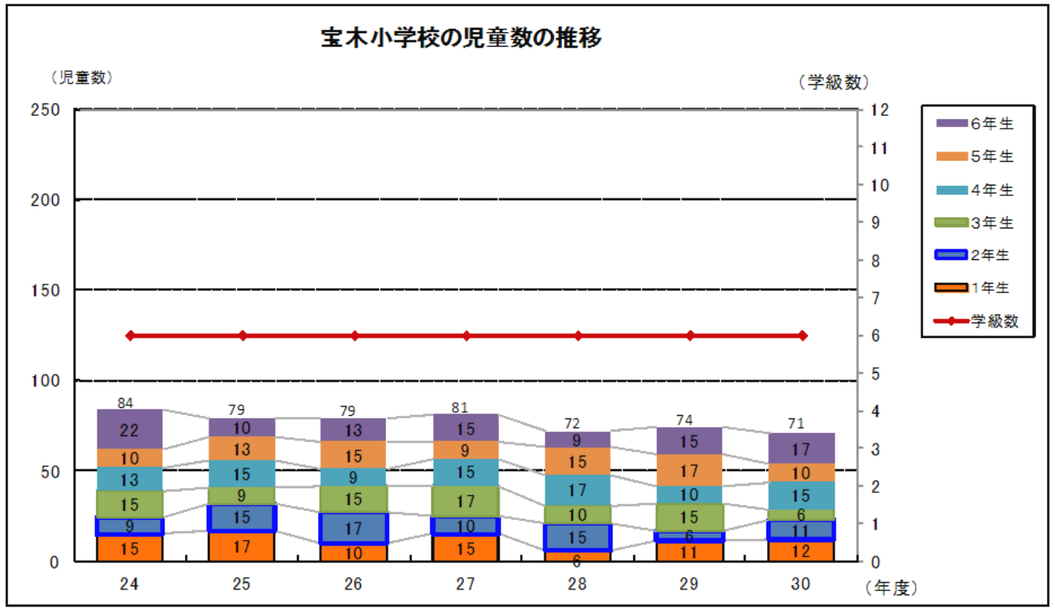


宝木小学校の児童数

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	
24	15	1	9	1	15	1	13	1	10	1	22	1	84	6	
25	17	1	15	1	9	1	15	1	13	1	10	1	79	6	
26	10	1	17	1	15	1	9	1	15	1	13	1	79	6	
27	15	1	10	1	17	1	15	1	9	1	15	1	81	6	
28	6	1	15	1	10	1	17	1	15	1	9	1	72	6	
29	11	1	6	1	15	1	10	1	17	1	15	1	74	6	−11.9
30	12	1	11	1	6	1	15	1	10	1	17	1	71	6	−15.48

※H24.5.1現在の児童数
※H25年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数
※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

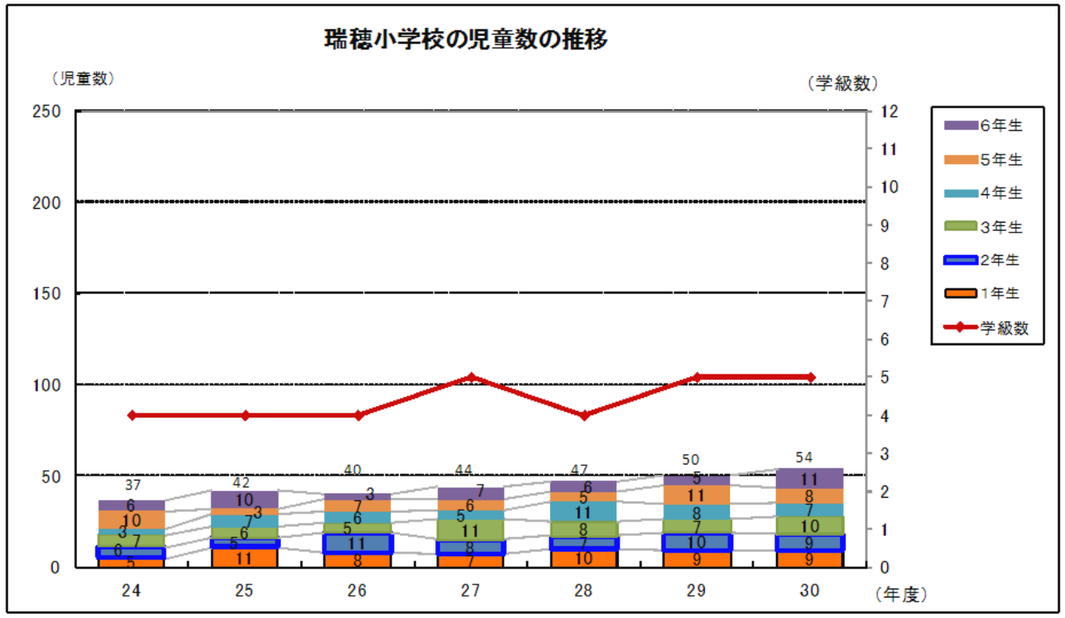


瑞穂小学校の児童数

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	
24	5	1	6	1	7		3	1	10		6	1	37	4	
25	11	1	5	1	6		7	1	3		10	1	42	4	
26	8	1	11	1	5	1	6		7	1	3		40	4	
27	7	1	8	1	11	1	5	1	6		7	1	44	5	
28	10	1	7	1	8		11	1	5	1	6		47	4	
29	9	1	10	1	7	1	8		11	1	5	1	50	5	35.14
30	9	1	9	1	10	1	7	1	8		11	1	54	5	45.95

※H24.5.1現在の児童数
※H25年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数
※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校学級編成基準により算出

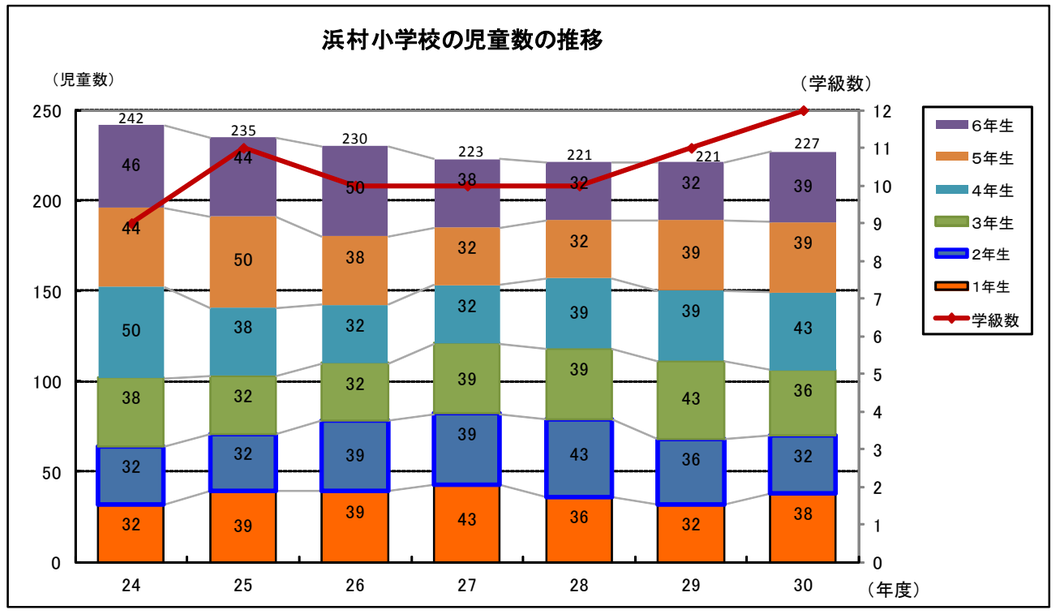


浜村小学校の児童数

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	
24	32	1	32	1	38	1	50	2	44	2	46	2	242	9	
25	39	2	32	2	32	1	38	2	50	2	44	2	235	11	
26	39	2	39	2	32	1	32	1	38	2	50	2	230	10	
27	43	2	39	2	39	2	32	1	32	1	38	2	223	10	
28	36	2	43	2	39	2	39	2	32	1	32	1	221	10	
29	32	2	36	2	43	2	39	2	39	2	32	1	221	11	−8.68
30	38	2	32	2	36	2	43	2	39	2	39	2	227	12	−6.2

※H24.5.1現在の児童数
※H25年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数
※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

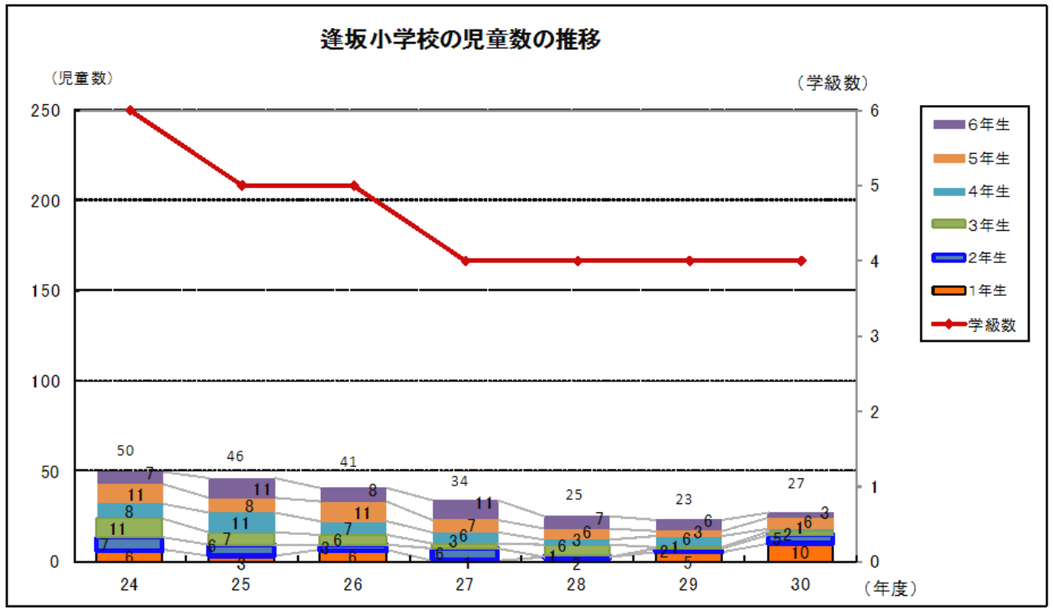


逢坂小学校の児童数

【年度・学年別児童数】

年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	
24	6	1	7	1	11	1	8	1	11	1	7	1	50	6	
25	3	1	6	1	7		11	1	8	1	11	1	46	5	
26	6	1	3	1	6		7	1	11	1	8	1	41	5	
27	1	1	6	1	3		6	1	7		11	1	34	4	
28	2	1	1	1	6		3	1	6		7	1	25	4	
29	5	1	2	1	1		6	1	3		6	1	23	4	−54
30	10	1	5	1	2		1	1	6		3	1	27	4	−46

※H24.5.1現在の児童数
※H25年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数
※H25年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数
※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校学級編成基準により算出



気高地域小学校の児童数

【年度・学年別児童数】

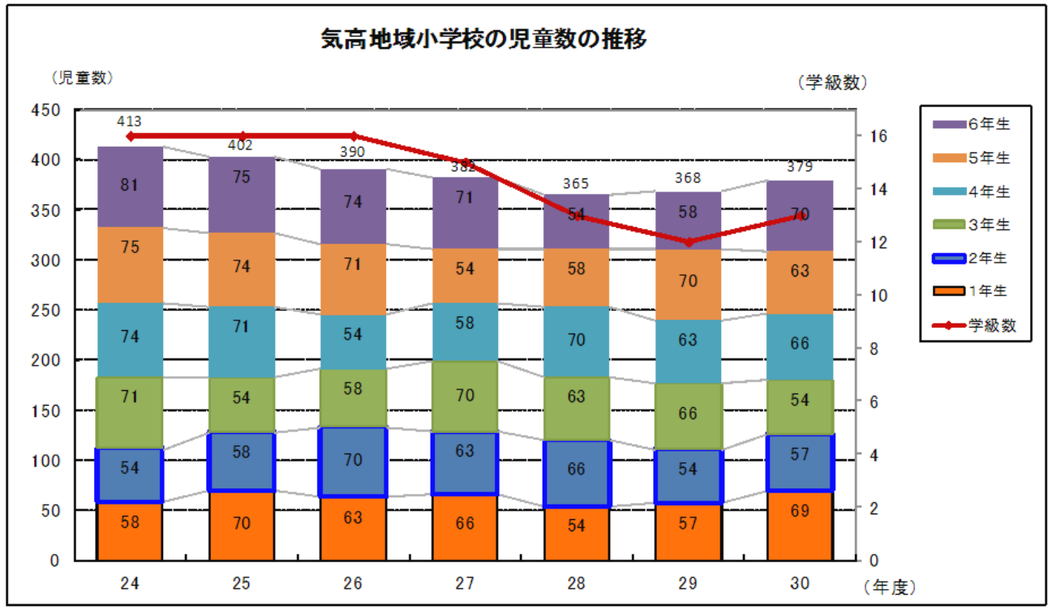
年度	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		全　校		全校生徒数増減率（対比H24）
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	
24	58	2	54	2	71	3	74	3	75	3	81	3	413	16	
25	70	3	58	2	54	2	71	3	74	3	75	3	402	16	
26	63	3	70	3	58	2	54	2	71	3	74	3	390	16	
27	66	3	63	3	70	2	58	2	54	2	71	3	382	15	
28	54	2	66	3	63	2	70	2	58	2	54	2	365	13	
29	57	2	54	2	66	2	63	2	70	2	58	2	368	12	−10.9
30	69	3	57	2	54	2	66	2	63	2	70	2	379	13	−8.23

※H24.5.1現在の児童数

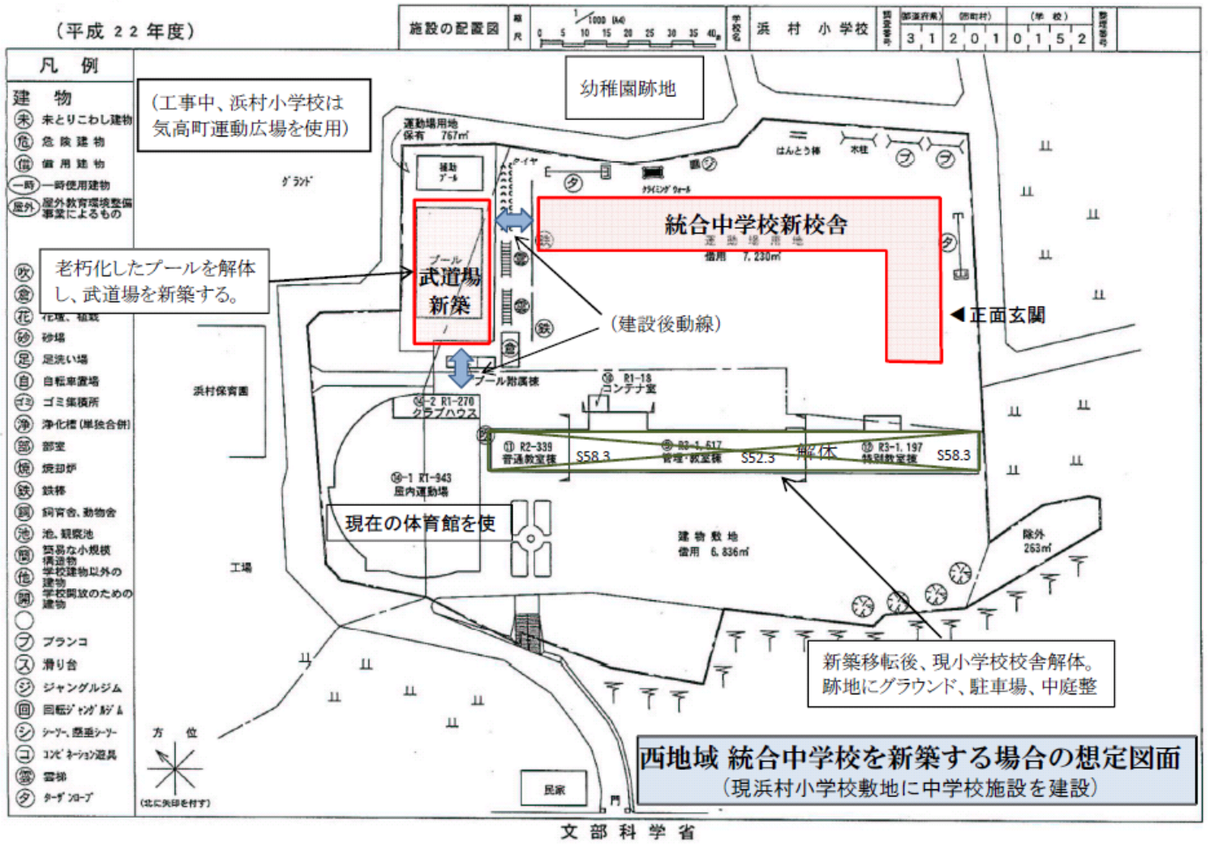
※H25年度以降の1年生は、H24.9.1現在の該当地域出生児数

※H25年度以降の2～6年生は、前年度の各1学年下の児童数

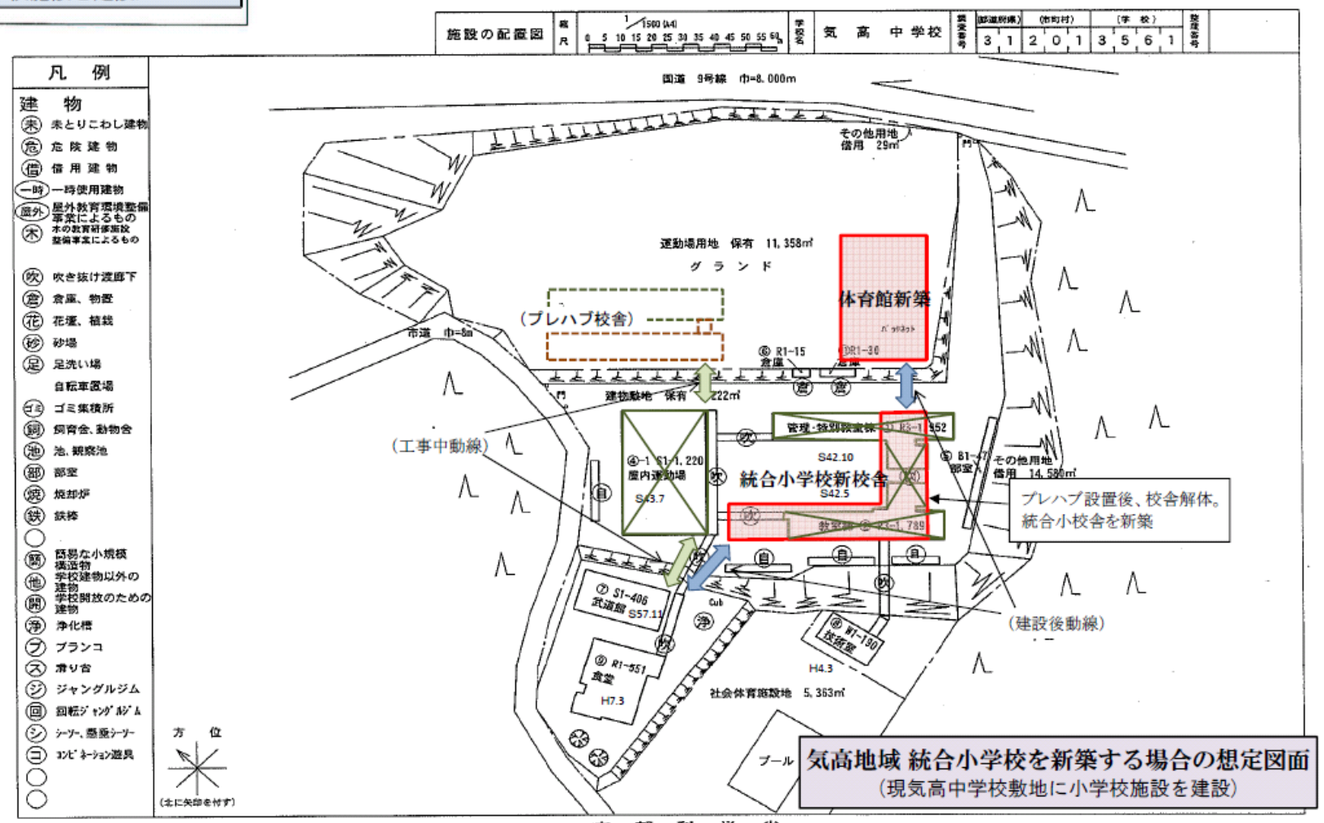
※学級数は、鳥取県公立小・中・特別支援学校少人数学級編成基準により算出

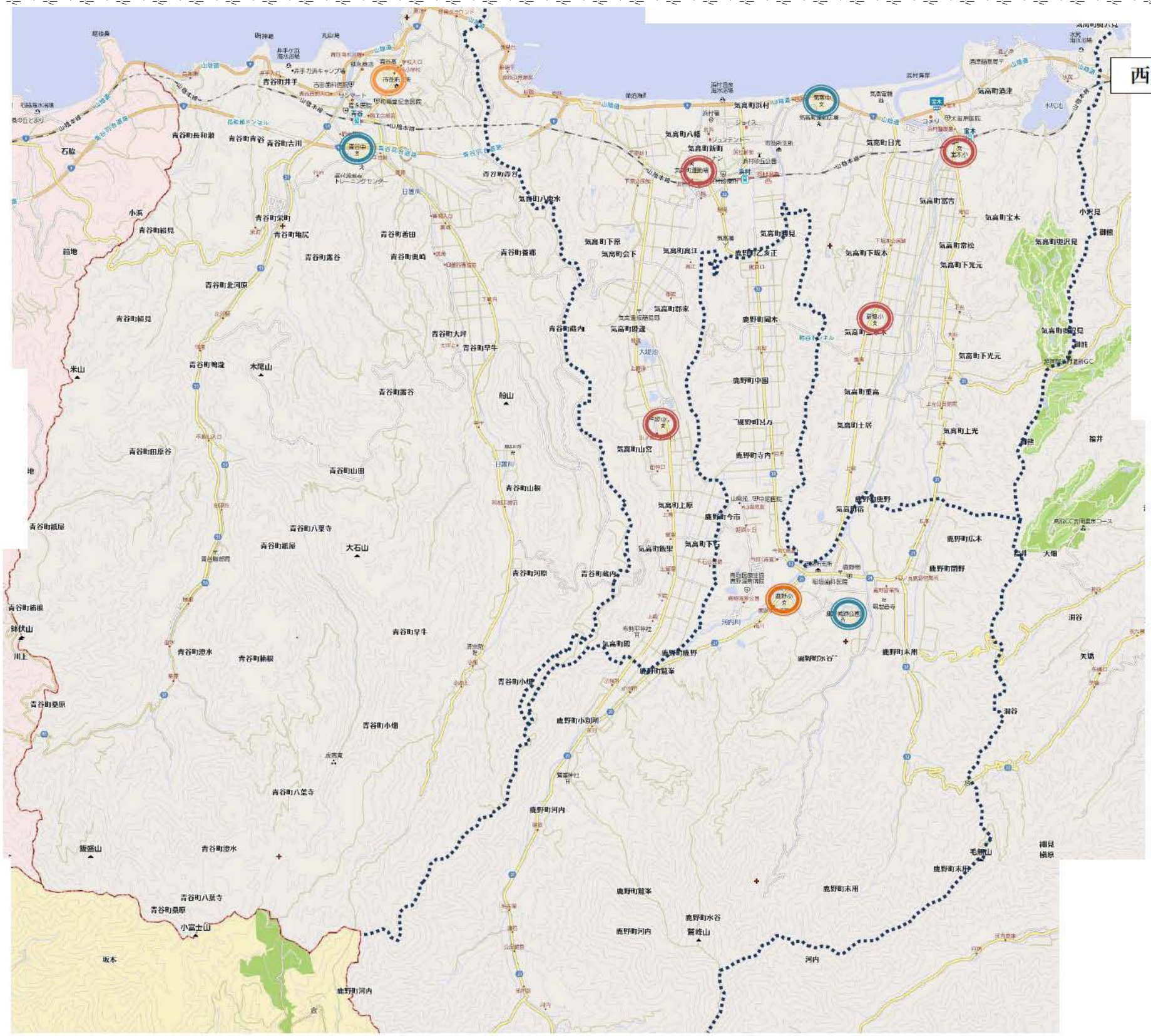


（平成２２年度）



文部科学省



文部科学省

西地域学校配置図